

## ルサ相泊地区における密度操作実験の試行の今後について

### 1. 捕獲手法

#### H22 年 3-4 月の捕獲試行を踏まえた手法の評価

- ・ シャープシューティング (SS) では 1 日複数回、連日の捕獲実施が可能
- ・ SS による連日捕獲をどれくらいの期間継続してもシカが出現し続けるか (SS により何頭まで捕獲頭数を積み上げることが可能か?) の検証は、今後の課題
- ・ SS は餌代等のため高コストで、短期的には捕獲効率が悪い点に課題あり。同地区のエゾシカ生息密度低下を短期間で実現するためには、他の捕獲手法の併用も必要と思われる。

#### 今後取り得る捕獲手法

##### a) 巻き狩り

沢沿いに射手を配置し、海岸段丘上の針葉樹林に潜むシカを別の沢から入った勢子が追い出して捕獲。実施場所や実施時期の SS との分離はある程度可能。地形が似ている岬町地区以南の国指定鳥獣保護区内で既に実施されている、羅臼町の有害捕獲と同じ要領での短期大量捕獲がおそらく可能だが、スマートディア化の懸念あり。

##### b) シャープシューティング (SS)

餌による誘引効果が大きい 2-3 月に集中的に実施。ルサ川河口右岸 (資料 3-1、表 3-1 の A 地点) 以外には事実上適地無し。他の場所では誘引餌の設置・補充が困難 (地形上の理由)。

##### c) 罠いワナ

ルサ川河口付近および昆布浜漁火橋付近の 2 ヶ所以外に適地無し。前者では工作物の暴風雪対策が必須。

##### d) 猟銃による流し撃ち

道路脇斜面に採食のために出現する個体を車で探索し、発見次第狙撃する。コストは低い、大部分の区間で路肩の擁壁の金網越し発砲となるため、路上発砲の許可が必要。また雪崩防止柵による跳弾にも注意が必要。大きな群れへの発砲を繰り返すとスマートディア化の懸念大。

##### e) 麻酔銃による捕獲

SS 的に誘引餌を用いて実施する方法と、道路脇斜面の個体に車で接近して捕獲する方法とがあるが、薬品代で高コストとなる (1 頭あたり d の約 5 倍)。有効射程距離も猟銃の 5 分の 1~3 分の 1 で、捕獲効率に難あり。

巻き狩りは他地区での実績もあり、実施すれば一定程度の捕獲が可能と考えられるが、知床岬地区と同様に、繰り返し捕獲によりシカが学習し (スマートディア化) 捕獲効率が低下することが予想される。このため、H22 シカ年度は、ルサ相泊地区での本格的な密度

操作実験の実施に備え、引き続きシャープシューティングの試行を実施するとともに、平  
行してルサ川の河口付近において囲いワナの試行を行い、捕獲効率の検証等を実施するの  
が適当と考えられる。

## 2. 効果の検証のための必要な調査

### エゾシカ個体群に関する調査の実施状況

当地区のエゾシカ個体群の動向に関しては、ライトセンサス調査を平成 12 年（2000 年）  
から平成 20 年までは毎月 1 回、21 年からは春と秋の各連続 5 日間の集中調査に切り替えて、  
羅臼町が実施（平成 19 年以降は知床財団が受託）。また冬期には、夕方に日中センサスを  
知床財団が実施している（平成 19 年～）。

季節移動調査（メス成獣）は環境省により平成 21 年春から実施。現在 2 年目。

平成 12～20 年のライトセンサス最大値	: 39.5 頭/km (H15 年 3 月)
平成 21 年春（4 月下旬-5 月初旬）集中ライトセンサス	: 24.1 頭/km
平成 21 年秋（10 月末-11 月初旬）集中ライトセンサス	: 8.8 頭/km
平成 21 年度 冬期日中センサス	: 最大 45.0 頭/km (H22 年 3/18)
平成 22 年春（4 月下旬）集中ライトセンサス	: 24.6 頭/km

H21 年春以降のライトセンサス結果は複数回調査の平均値。

ルサ相泊地区でセンサス実施日に電波の入感があった季節移動調査用標識個体（メス成獣）のライトセ  
ンサスにおける視認率から、同地区全体（幅約 2-3 km、長さ約 10km）のエゾシカ生息数を簡易的に推定し  
たところ、H22 年春は  $343 \pm 72$  頭（メス成獣のみ、調査 5 回分の平均値  $\pm$  標準偏差）であった。

### 植生調査の実施状況

林野庁北海道森林管理局が混合ベルト調査区（带状区）を 10 ヲ所（Ra01～10）設定し、  
平成 19 年 9 月～10 月に植生調査を 1 回実施したのみ。左記の調査では、100 m  $\times$  4 m の帯  
状区において、樹高 1.3 m 以上の全ての立木（枯死木含む）の毎木調査を行い、樹皮食い  
の程度を記録。また带状区内に各 6 ヲ所設定した半径 3 m の円形区内で、立木の下枝や稚  
樹の推定現存量と被食状況を調査。林床の全高等植物種についても各円形区内での種数と  
被度を記録。ササ類については、各带状区内に 6 ヲ所設定した 1m  $\times$  1m の小方形区におい  
て、種別に 1 cm 単位で地上高を計測し、目視による被度を 10% 単位で記録した。

全体的に斜里町側と比較するとエゾシカによる影響は顕著ではなかったが、10 ヲ所の調  
査区の中でも、樹皮食いの面積が比較的大きい調査区や、ササの高さや現存量指数が低い  
調査区も認められた。

### 新たな調査の必要性

既存の混合ベルト調査区は、広域的、長期的な森林群落の動態把握などを目的としており、ルサ相泊地区において密度操作実験を実施した場合の評価には不十分。調査区を追加設定する必要あり。エゾシカの生息密度変化に鋭敏に反応する植生タイプに追加設定するため、今年度はルサ相泊地区の植生の全体像を把握し、適切な調査プロットの選定を実施する。次年度以降、仮に本格的なエゾシカ捕獲を実施するのであれば、選定した調査区で密度操作実験の評価を目的とした短期的な植生モニタリングを実施する。

なお、希少猛禽類の営巣地付近での捕獲は予定していないが、一部の行動圏での実施を検討しているため、捕獲の実施が希少猛禽類の生息等に与える影響のモニタリングの実施について、専門家の意見を聞きつつ検討する。

### **海外のシカ管理専門家の招聘**

本年7月に海外におけるシカ管理等の専門家を招聘し、行政機関や地元猟友会等を対象としたセミナーを開催する予定。海外における鳥獣管理の手法等を紹介してもらうとともに、ルサ相泊地区等の視察を行い、知床で実施されている捕獲に対し、提言やアドバイスをもらうことを想定している。